



五つの階段と ひとつの坂

今回おやちがご紹介したいのは荒木町の「五つの階段とひとつの坂」ですぞ。スリバチ地形が作る勾配にそれぞれの辿ってきた歴史が見え隠れしております。立ち止まってじっくり眺め、その物語に耳を傾けてください。オマケにおやちの思い出ばなしも盛り込んでおりますぞ。

この坂の階段は高い石垣があり、スリバチ地形の底に居ることをもっとも感じる場所。右の小さな階段はかつて、料亭の裏口に続いていたそうで、ここを使った著名人には誰がいただろうか想像が膨らむ。



この「仲坂」降りると両脇に小さな石碑が階段の両側にある。少しコンクリートに埋まったその姿は、急いで近代化した街の様子が伺える。



「S字カーブ坂」はかつて大きな料亭「霞山亭(かざんてい)」があった。その庭から「おちの瀧」が落ちていたそう。

おやちの「仲坂」での思い出は、1962年の日活映画「雲に向かって起つ」(石原慎太郎原作)の映画では、政治記者役の石原裕次郎が千ピラに絡まれるシーンをこの仲坂で撮影した。中学生だったおやちは足の長い裕次郎と「花奴」という芸者役(水谷良重、二代目水谷八重子)のかっこいい姿、立ち回りに惚れ惚れした思いがある。

石畳の階段をゆっくり歩いていると、茂った緑の中にひっそり佇む「千葉」という料亭がある。昭和の初めにタイムスリップしたような雰囲気ある建物である。おやちはこのでなんとあの「読売巨人の長島茂雄」を目撃！巨人ファンの若かりしおやちは感動でいっぱいだった。

五番街坂と料亭千葉の脇にはコンクリート製の電柱が残されている。



とんかつ鈴新

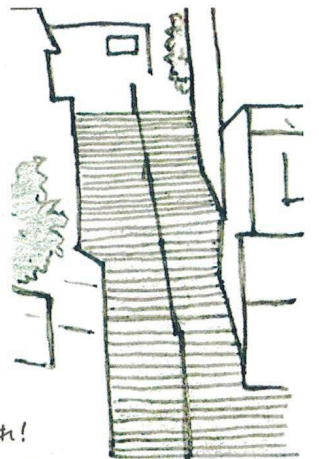
かけカツ丼で腹ごしらえ



五番街坂と千葉坂はなだらかな石畳の坂。カランコロんと芸妓が下駄を鳴らし歩いていたのだろう。

通称「モンマルトル」の坂。

あのフランスの丘にある有名な坂に似ているとな。荒木町で最も急勾配で長い階段である。



腹ごしらえした後、荒木町を散策してみてください！

